



企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619  
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター

## 平成28年度 赤十字シンポジウム (広島会場) を開催しました。

平成28年7月30日(土)広島駅新幹線口から二葉通りを渡り昨年末に完成したばかりの広島県医師会館にて「医療現場の最前線」をテーマに平成28年度赤十字シンポジウム(広島会場)を開催しました。当日はうだるような暑さにもかかわらず県内外から多くの医療関係者にご参加いただき、272名(医師21名、薬剤師34名、臨床検査技師119名、看護師51名、その他47名)と会場はほぼ満席でした。



榎 和央 所長

『C型肝炎の最前線～臨床現場における抗HCV療法の変遷～』(広島大学病院 川上由育 先生)は、2年前の本シンポジウムで承認前の治療薬についてご講演いただき大変好評で、アンケートでも是非続報が聴きたいとのご要望が多かったため、昨年承認された後の医療現場についてご講演いただきました。C型肝炎ウイルスの特性と肝病変からの発癌率、インターフェロン治療から新たなDAA治療と治療の変化をわかり易くお話しいただきました。『日赤からの情報提供～個別NAT導入効果～』(大熊重則 中四国ブロック血液センター品質部長)は日本赤十字社の近年の感染症に対する安全対策及び個別NAT導入後に確認されたHBV感染事例の報告で、検査の感度が上がっても感染リスクはゼロにはならないという内容でした。『造血幹細胞移植の最前線』(広島赤十字・原爆病院 岩戸康治 先生)はHLA一致血縁同胞骨髄移植から始まった造血幹細胞移植が非血縁骨髄、末梢血、臍帯血と広がる選択肢、骨髄非破壊性前処置法の確率による年齢層拡大、HLA半合致血縁ドナーからのハプロ移植と個々に応じた移植が可能となってきてはいるが、移植までの期間の長さ、血液内科医不足など解決しなければならない課題もあるとのことでした。『在宅輸血の最前線～在宅輸血における現状と課題～』(山形県赤十字血液センター 黒田優 先生)では、今後在宅医療を推進するにあたり、一定の質を保ちながら在宅輸血を安全に行うためのスタンダードとなるべく『在宅輸血ガイドライン素案(手引書)』を作成し、それに対する在宅医療を実践している医療機関と輸血医療を実施している医療機関双方からの意見を収集された結果を今後の課題と共にお示しいただきました。

暑い中お越しいただいた医療関係者の皆様、演者、座長の先生方、会場運営に尽力されたスタッフの皆さん、ありがとうございました。

来年度の赤十字血液シンポジウムは8月5日(土)に愛媛県で開催します。今回参加出来なかった方も是非お越しください。

(中四国ブロック血液センター学術情報課 是澤光治)



広島大学病院 川上由育先生



山本 昌弘 先生



大熊重則部長



## スタッフとして参加して

7月30日に開催された「平成28年度赤十字シンポジウム」に会場スタッフとして参加しました。

これまで、聴講者として参加したことは何度もありましたが、開催する側としての参加経験は初めてでした。お越しいただいた医療関係者の皆様、演者、座長の先生方には至らない点もあったかと思いますが、無事にシンポジウムを終えることができ、ほっとしております。

今回のシンポジウムでの私の主な仕事内容は、演者、座長の先生方と関わる事が多く、先生方の講演中にはもちろんのこと、講演中以外での様子も近くで見ることができました。先生方の控え室ではたくさんの質問が飛び交い、多岐にわたる知識量、また最新の情報に常に幅広い分野にアンテナを張る姿勢など、自身の仕事に対して刺激を受けました。

また、演者、座長の先生方の水を交換するために舞台上を歩いたことは、会場全体の緊張感を感じとることができ、良い経験となりました。

今回のシンポジウムは、多くのことを感じた機会となり、これからの仕事に繋げていけたらと思います。

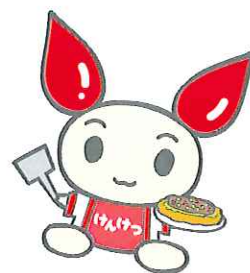
(中四国ブロック血液センター 検査一課 池田 梢)



広島赤十字・原爆病院 岩戸康治先生



前迫 直久 先生



山形県赤十字血液センター 黒田優先生



広島市にて開催された「平成28年度赤十字血液シンポジウム」に会場スタッフとして参加させていただきました。

私が入社1年目ということもあり、シンポジウムという場にも不慣れであったため、当日来場された皆様にはご迷惑をおかけした点もあったのではないかと思います。他の会場スタッフの方々のフォローとご指導のおかげで無事に当シンポジウムを終えることができましたことに御礼申し上げます。

中四国を中心に遠くからもシンポジウムに参加される皆様の姿を見て、業務にかかわることを学習する姿勢は受け身でなく、能動的な姿勢を持つことが大事だということを再認識いたしました。「生涯学習」という言葉を知っていたはずですが、参加者の皆様の様子や参加態度に、日々の自身の姿勢というものを反省させていただく機会が得られ、今一度「生涯学習」の重要性を再確認することができました。このような機会を大事にしていきたい所存です。

また、今後も血液事業に携わる者として、最新の情報に触れることができる機会を活かし、参加者の皆様と共に輸血医療の発展に尽力する所存です。

(中四国ブロック血液センター 需給管理課 小山龍太郎)